和光中学校道徳通信　　*生徒会スローガン「自学豊心 ～前向き・励まし・思いやり～」*

和 ～心をつなぐ～

令和６年２月２９日
第 ９ 号

未来への選択

よく「人生は選択の連続である」と言います。幕末に日本を変える大きな選択をした井伊直弼の生涯と、大切にしていた「一期一会」という言葉から、強い意志をもって選択することについて考えました。〔※ 裏面：放送内容〕

☆ １年生 ☆

○　小さな選択をして、その選択をいろいろな人に言われても、強い意志をもって、行動したいです。

○　精いっぱい心を尽くして生きていくことの大切さが分かりました。考え方や人生に正解はありませんが、自分が思う良い人生を目指して、今を大切に精いっぱい生きていきたいと思いました。

○　井伊直弼のように、一生に一度のことを大切にし、人生で悔いが残らないようによく考えて選択したいです。

☆ ２年生 ☆

○　日頃からしている選択は、見えない未来に影響をもたらすものだと思いました。自分も一期一会の言葉を大切にして生きてみたいです。

○　選択をすることでどう変化するか分からないし、失敗か成功かも分からないけれど、選択をしないと何も変化しないから、失敗を恐れずに選択することが大切だと思った。

○　自分も今までに大きくはないけど選択をすることがあって、そのときに自分は他と違う選択をすることを恐れていました。これからは恐れずに自分の考えた選択をしていきたいと思いました。

☆ ３年生 ☆

○　私も志望校を決めるときに、大きな選択をしました。その先のことも考えながら、自分の意志で決めることができました。その時に先生や家族にたくさん支えてもらったので感謝したいです。

○　３年生である私にとって、ここからは選択の毎日だと思います。高校という右も左もわからない世界で、のらりくらり生活していては、自分で考えて選択する習慣がなくなってしまうので、これからは考えて選択していきたいと思います。

○　生きていたらいくつもの選択をしなければいけないと思うけれど、それから逃げずに挑戦することが大切だと思った。

○　私はいつも何かをするときに適当にしてしまい、じっくり考えず、直感で選んでしまうことが多いです。そうることがいいときもあるけれど、これからは一つ一つの選択をよく考え、何が大切かを心にしっかりともって生活していきたいと思いました。

みなさんは黒板に貼っている肖像画の人物が誰なのか分かりますか。この人物は、彦根藩（現在の滋賀県）の藩主、後に江戸幕府の最高職である「大老」を務めた井伊直弼（なおすけ）です。彼は約 250 年続いた鎖国を終わらせた人物でもあります。

井伊直弼は、1815 年、第 14 代彦根藩主・井伊直中（なおなか）の 14 男として誕生しました。多くの兄がいたため、自分が藩主になることはないと考えた直弼は、自分自身を「花が咲くことなく埋もれていく木」に例え、32 歳までの 15 年間、『埋木舎（うもれぎのや）』と名付けた屋敷で学問や武芸に励みながら過ごしました。特に茶道を熱心に学びました。そんな直弼が大切にした言葉が「一期一会（いちごいちえ）」です。「一度の茶会での出会いは一生に一度だけのものだから、心を尽くして出会いのときを大切にしよう」という意味です。この埋木舎で過ごした期間に、多くの出会いを通して、直弼の考えや意志の強さが育まれました。

そんな直弼の人生が変わったのは、1850 年、35 歳の時でした。兄であり、藩主であった井伊直亮（なおあき）が亡くなったため、藩主となったのです。さらにその数年後、日本を大きく変える出来事が起こりました。アメリカの軍人マシュー・ペリーが日本に交易を求めて浦賀（現在の神奈川県）に来航したのです。当時の江戸幕府はオランダ・中国・朝鮮のみと交易を行う「鎖国」をしていました。突然のペリーの「黒船来航」によって、日本が開国するかどうかの論争が起こり、国中が混乱を極めました。そのような中で、直弼は政治の最高職である大老に就任し、一つの大きな選択をしました。それは、250 年以上続いた「鎖国」をやめることです。この「鎖国」をやめることについては、多くの大名や天皇、そして直弼自身にも大きな抵抗がありました。しかし、日本が前に進むため、世界に取り残されないため、「鎖国」を終わらせるのは必要なことでした。いろいろな人から恨まれることを恐れず、強い意志をもち、実行し
は反対する藩の者たちにより、暗殺されてしまいました。1860
る日のことでした。

〔彦根城内に残る埋木舎〕

大きな選択をするときには、これまでの生き方が影響するもので
で学んだことや出会った人たちの支え、一度きりのことを大切にす
る「一期一会」の考えが、歴史を動かす大きな選択へとつながっ
のです。私たちも無意識のうちに数え切れないほどの小さな選択を
積み重ねて生きています。それらが果たして正解であったのか、その答えは誰にも分かりません。しかし、よりよい未来を生きるためには、常に結果にとらわれることなく、何が大切かを心にしっかりともって歩んでいくことが大切なのではないでしょうか。

☆ 保護者の方からの感想 ☆　　２月 「助け合い支え合う」

- 日常から家庭でも備蓄品の点検をして災害から身を守る備えをしたいです。また、被災地の方の為に自分ができる事をしたいです。
- 子どもには、困っている人がいたら心配したり助けたりしようとする優しい人になってほしいと思います。
- この製パン会社の「お客さまに製品を届けることに全力を挙げる」という信念が、状況が変わった時にも「被災者への食糧供給は責務」というように、“人”に対するあたたかい支えになる大きな力となることが分かりました。私たちにできる小さなことも、同じような気持ちを持つ人が集まれば大きな支えになるはずです。まずは自分にできる一歩からはじめていきたいです。

（紙面の都合上、感想の一部のみ掲載しています。ご了承ください。）